



西落合八王子社 茅の輪くぐり

# 水無月、健康を祈る ～八王子社の輪くぐりとお菓子～



水無月  
小麦の外郎の上に小豆がのせられている (つるや)



楊洲周延作「千代田之御表 六月十六日嘉祥ノ図」明治30年 (国立国会図書館蔵)

水無月、旧暦の6月は二十四節気の大暑にあたり、疫病が流行る季節でした。そのため、水無月には無病息災を祈る夏越(なごし)の行事が行われてきました。今月は夏越とお菓子の関係をひもときます。

6月16日 嘉祥(かじょう)

6月16日には古くから疫病を防ぐため菓子を食べる嘉祥と呼ばれる行事が行われてきました。少なくとも室町時代の史料には嘉祥の記録が見られます。江戸時代になると嘉祥は幕府の年中行事となり、江戸城でも盛大に行われました。將軍から家臣へ下賜される饅頭や羊羹などの菓子が約2万个も用意されたそうです。これが庶民にも広まり、この日に疫病除けや招福のため16文で餅や菓子を買って食べる「嘉祥喰」が行われました。明治時代には廃れましたが、現在はその由来から和菓子の日とされ、嘉祥の記憶が受け継がれています。

6月30日 夏越の祓(茅ち)の輪くぐり  
6月30日にはケガレを祓い無病息災を祈る大祓(おおはらえ)が平安時代宮中行事として行われてきました。その後大祓は夏越の祓や禊(みそぎ)祭りとして民間に広まり、この日魔除けの力があると信じられていた茅(ちがや)を輪にしたものが人々の腰に吊り下げられました。江戸時代の終わり頃には茅で大きな輪を作り、そこをくぐれば邪気が払われ病にならないという茅の輪くぐりが始められます。明治時代以降、市内の神社でも茅の輪くぐりが行われるようになりましたが、現在は落合地区の八王子社だけで続けられています。八王子社は病気や災厄を司るスサノオとその五男三女神などを祀り、災厄避けの信仰を集めました。禊祭りは西落合、東落合、西新居の三集落の祭り、地元で「わつくぐり」と呼ばれています。八王子社の拝殿前に設置された茅の輪をくぐれば健康になると言われ、西山に日が沈む頃に

は小さな子どもから大人まで多くの参拝客で賑わいます。かつては祭りが終わると三つの集落の若者の間で茅の輪の争奪戦が繰り広げられましたが、西新居が勝つて道祖神前に奉納することが決められていました。これは西新居以外の集落へ納めた時に洪水があった



からだと伝えられています。

6月30日の夏越の日には無病息災を祈るために特別な菓子も食べられてきました。室町時代には麦餅やねち餅、江戸時代では麦と大角豆(ささげ)を入れたお菓子「水無月蒸餅」を和菓子の老舗虎屋が御所に納めていた記録があります。\*「豆」には霊力が宿り、魔を祓うと考えられてきました。節分の豆まきもその例です。こうした信仰が受け継がれ、昭和に京都の和菓子屋で考案されたのが外郎(うしろ)に小豆のせた「水無月」です。近年では市内の和菓子店でも季節のお菓子として店に並ぶようになりました。

健康は昔も今も変わらない人々の願いです。6月は和菓子と伝統行事を楽しみながら、健康について見つめ直す季節なのかもしれません。

なお、八王子社茅の輪くぐりは、6月30日(木)に開催されます。

文/写真 文化財課

(※) 浅田ひろみ 2002「水無月考」『和菓子』第9号虎屋文庫